

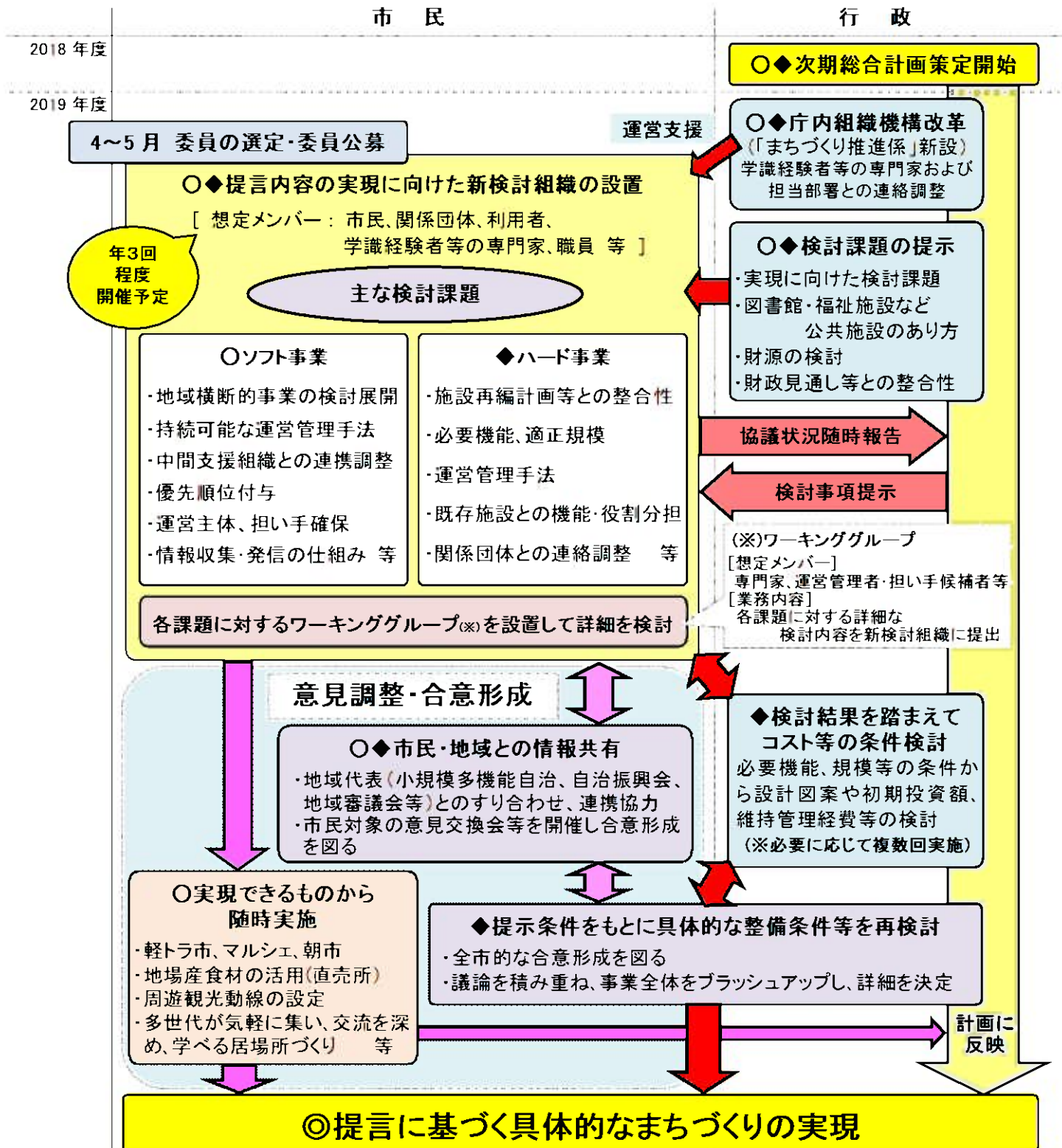
まちづくり検討会議からの提言実現に向けた今後のスケジュールについて

まちづくり検討会議からの提言実現に向けた課題の解決にあたっては、新たに設置する検討組織での協議検討内容を踏まえながら、実現可能性の高いものから優先的に取り組んでいきます。

まずは、ソフト事業のうち、既に実施されている取り組みの整理統合・連絡調整・連携協力・ブラッシュアップなどを行い、各地域および全市横断的なまちづくり事業を展開し、市全体の活性化を図ります。

また、ハード事業については、既存施設の機能や役割等を検討しながら、真に必要な機能、適正規模、インシャルコストやランニングコストの検討・試算などを行い、日常的に市民が気軽に使えて、将来負担の少ない、理想的な居場所づくり・まちづくりを目指して、次期総合計画に盛り込んでいきます。

《提言実現に向けたスケジュール》 (○ソフト事業、◆ハード事業)

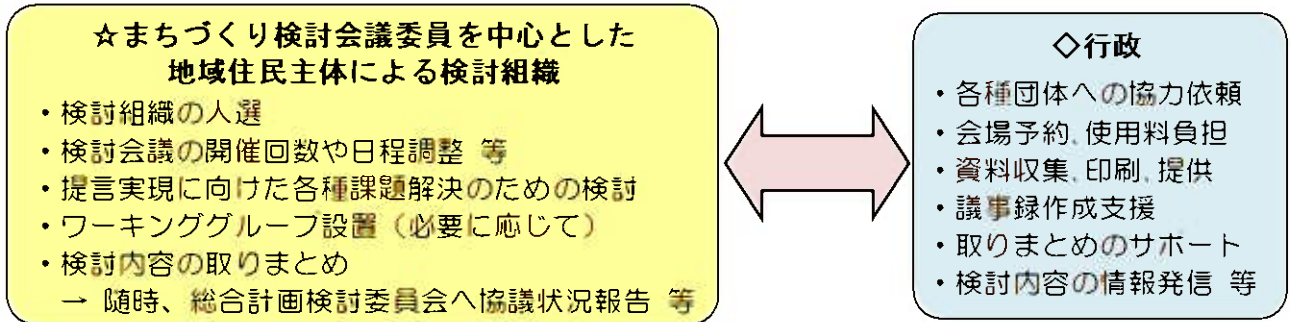


◎まちづくり検討会議からの提言実現に向けた新検討組織体制の構成（案）

- ・ 全市的な観点 → 総合計画審議会で検討
- ・ 地域的な課題 → 新検討組織で実現に向けて再検討

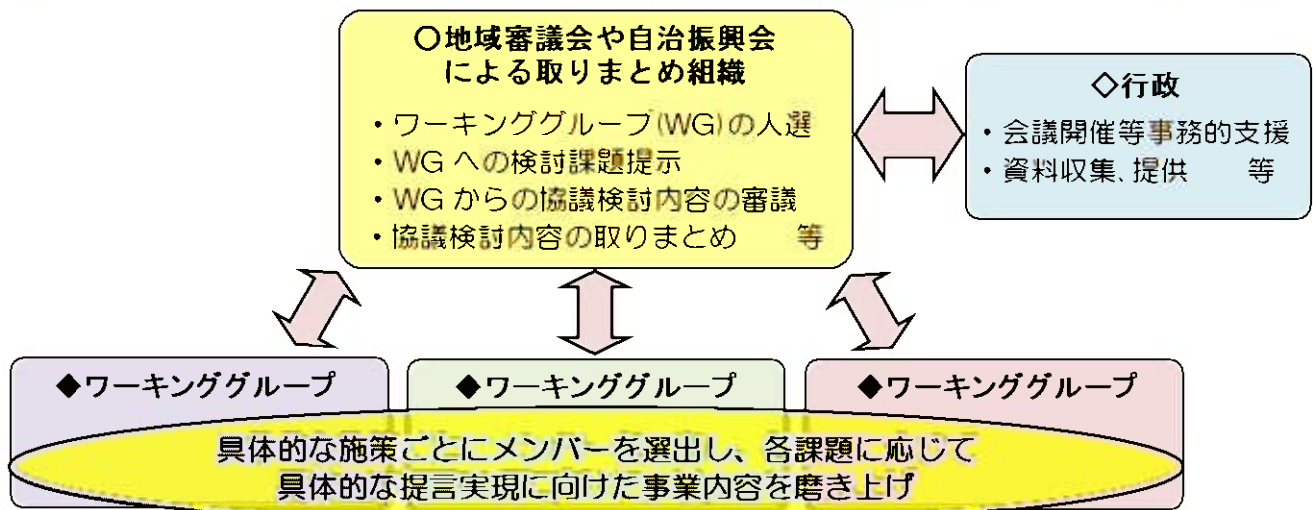
案① 地域住民主体の新検討組織

まちづくり検討会議委員等の地域住民が主体となり、ワーキンググループの設置など、提言実現に向けた課題検討組織の設置・運営等を担う。行政は円滑な運営及び協議検討をサポートする。



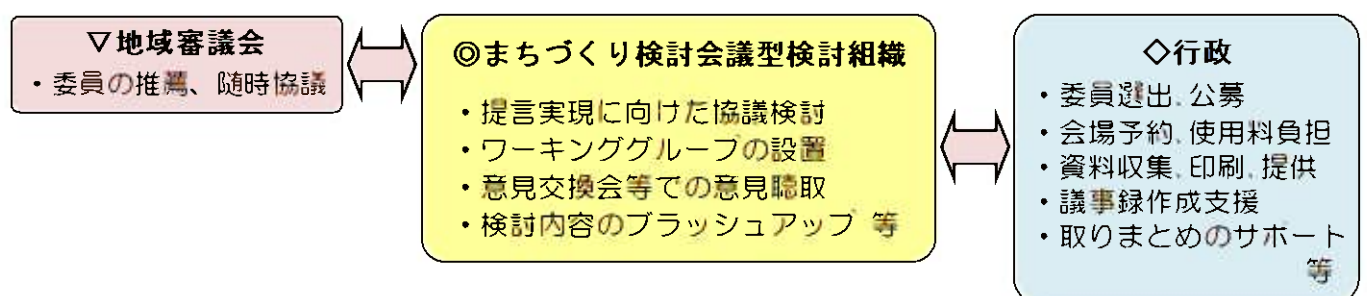
案② 地域審議会主体の新検討組織

地域審議会や自治振興会などが主体となって具体的な施策ごとに担い手となるメンバーを選出し、ワーキンググループ(WG)を設置。WGの協議検討内容を審議し実現に向けた取り組みを行う。



案③ 行政主体の新検討組織

行政が主体となって、施設再編計画等の各種計画との整合性や全市的なバランス等を考慮しながら、提言実現に向けて現実的で持続可能な施策や財源等の検討を行う。



まちづくり検討会議からの提言実現に向けた課題整理（市全体）

<市全体をみて検討すべき課題>

1. 図書館や高齢者福祉施設のあり方

今後の人口見通しを踏まえた、中央図書館とその他の図書館の機能分担、老人福祉センター等の高齢者福祉施設のあり方、提供すべきサービスの適正な規模の検討（行）

2. 市全体を捉えた必要な機能・規模

何を残し、何を活かし、何を求めるのか、市全体のバランスや将来展望を踏まえた上で、必要な機能と規模の検討（行・民）

3. 財政的課題

今後の財政見通しを踏まえた施設整備や維持管理に充当できる金額の算定（行）

<共通して検討すべき課題>

1. 各種計画との整合性

公共施設再編計画等、各種計画との整合性の検討（行・民）

2. 効果的な運営手法及び整備財源

官民連携による公共サービス提供手法である PPP (Public Private Partnership) や PFI (Private Finance Initiative: 公共施設等の維持運営管理に民間資金やノウハウを活用した効率的で効果的な民間主導型の公共サービス提供手法) 等の導入検討、国や県の補助金の活用、有利な起債、クラウドファンディング・幸せ未来基金など整備財源の検討（行・民）

3. 施設管理者や事業運営者と事業実施費用

誰が施設管理を担うのか、誰が事業を実施するのか、民間事業者や地域団体、行政、官民連携等、実施主体と維持管理経費の負担者を決定（行・民）

4. 小規模多機能自治との連携

交通弱者対策（デマンドバス・タクシー等）を含めた小規模多機能自治との役割分担・連携強化（行・民）

5. 既存施設の活用と民間事業者との調整

「居場所づくり」に今ある施設を活用するなど、既存施設の利活用を検討（行・民）

6. 既存事業の活用と連携

既に市内で実施されている事業や民間事業者が実施している事業の活用・連携については、役割分担とともに民業圧迫にならないよう配慮（民）

7. 優先順位

複数の事業提案がある場合、優先順位を決定（民）

8. 役割分担

ソフト事業の主体は市民、行政は支援、協働による事業実施の場合、責任の所在を明確化（行・民）

まちづくり検討会議からの提言実現に向けた課題整理（城端地域）

〔ハード事業：新たな施設整備や既存施設の改修等〕

○ 新しい複合交流施設の整備

地域内・市内・近隣自治体類似施設との機能分担・住み分け

- ・ 人口減少を踏まえた施設（規模・コスト・必要性・ニーズ把握など）のあり方（行）
- ・ 運営主体の選定と維持管理経費等の財源確保（行・民）
- ・ 地域全体として使う機能と小規模多機能自治の拠点として使う機能を明確化（民）
- ・ 地域内の類似施設との役割分担・必要機能の詳細検討（民）

○ 図書館や美山荘（福祉施設）機能のあり方

- ・ 市全体の図書館整備方針 および 保存されている文化財の取扱い（行）
- ・ 美山荘（地区社会福祉協議会）のあり方、地区社協の役割（行）
- ・ 蔵書少なめで司書が常駐する図書館（スペース）に必要な機能（民）

○ 複合交流施設の整備方法

- ・ 複合交流施設の新設 or 改修の検討（行）
- ・ じょうはな座と複合交流施設を回遊する必要性（民）
 - コスト試算（初期投資・維持管理経費）、スケジュール作成（行）
 - じょうはな座の増築活用案の検討（行）

○ 行政から複数パターンを提示し、市民が真に必要な機能を再検討（行・民）

- ・ 将来を見据えた類似機能の整理検討（民）

〔ソフト事業：新たな制度の創設や手法の展開等〕

○ 運営にあたって城端地域、小規模多機能自治が担う役割（行・民）

○ 行政センター窓口、図書館部分、子育て世代の悩み相談の運営にあたって市が担う役割・機能（行・民）

○ 「まちのえき」の運営主体は？（民）

○ 既存施設との役割および機能の分担、民間事業者との連携調整（行・民）

- ・ カフェ、喫茶、土産物販売所、入居者選定（民）

○ 情報収集・管理・提供を担う仕組みの運営主体は？

- ・ 祭り、イベント、求人等の情報収集・管理・発信（民）

○ 稼げる拠点としての収益事業の内容、テナント募集（民）

○ どんな人がコンシェルジュになるのか

- ・ 誰が「ヨスマな人」の人材発掘と育成を行うか？（民）

〔その他〕

○ 各施設の取り壊しはスムーズに進められるか？

- ・ 複合化で不用となる各施設の譲渡・利活用もしくは解体の手続き（行）

○ 移転候補団体の意向確認及び調整（担当課対応）（行）

○ 旧共同福祉施設（耐用年数超過・未耐震化）を交流センターとして管理可能？他施設を検討？（民）

《すでにある取り組み事例》

【城端地域】

- ▽ベタンク、体操・ヨガ教室、囲碁サロン等のサークル活動
- ▽軽トラ市・マルシェの開催
- ▽「まちのえき」の開設

【井波地域】

- ▽なんとポイント・市内共通買物券の活用
- ▽地場産野菜直売所の開設運営
- ▽農産物オーナー制度
- ▽宿泊・民泊斡旋紹介アプリの活用(Airbnb など)
- ▽観光案内拠点(交通広場の活用)
- ▽国際木彫刻キャンプ・キャンプ作品まちなか展示
- ▽木彫刻スマホスピーカー等の制作体験
- ▽地場産食材の活用と伝統料理教室等の事業展開
- ▽彫刻パーク・体験拠点、アトスペース、彫刻師養成事業

【福野地域】

- ▽芝生広場（猿が辻公園）
- ▽空き家改修交流施設
- ▽市施設の空き室活用
- ▽福野家守舎の取り組み（NishichiMarche など）
- ▽オーガニック農業、耕作放棄地での農業体験
- ▽生涯学習としての ESD 教育の研究・検討
- ▽「地域課題解決」の具体的なカリキュラムの検討・実践 [福光高校の事例]
- ▽地域の伝統文化（福野織など）の PR
- ▽エコ住宅ゾーン整備

【福光地域】

- ▽社会福祉協議会主催相談事業
- ▽中間支援組織の取り組み（「ふくみつつ」「ほっこり南砺」「にほんご広場なんと」「エコトママン」等）
- ▽女性起業塾などの取り組み（チャレンジショップ）
- ▽棟方志功の足跡巡り（ウォーキングコース）設定 <棟方徑道めぐり>
- ▽空き家対策
- ▽地元特産品提供・六次産業化（ワイナリーなど）
- ▽朝市（福社会館周辺）
- ▽中央図書館の活用（コミュニティカフェ・相談窓口・市民活動支援拠点）
- ▽まちづくり会社の支援
- ▽あることカレンダー等の作成運用
- ▽郷土学習の実践
- ▽里山職業セミナー・里山マイスター事業

1. 城端地域の現状と課題

◎城端地域の現状

[強み]

- ユネスコ無形文化遺産の城端曳山祭
- 曳山祭とむぎや祭り、大きな二つの祭行事
- ハブ化した駅があり、拠点性もある地域
- 三世代交流が行われている
- 十分に暮らしやすい
- 風情ある町並み、越中の小京都
- 立派なもの、すばらしい特性がいたるところに残っている

[弱み]

- ▽ 人口減少、少子高齢化による担い手不足
- ▽ 空き家・空き店舗の増加
- ▽ 老朽化で整理検討が必要な施設が集積している（図書館、勤労青少年ホーム、起業家支援センター、旧城端共同福祉施設、保健センター、美山荘）
- ▽ 酒席を含めた会議の場の不足

◎城端地域の課題

- ◇ 庁舎が無くなってもまちがさびれないような新たな拠点（複合交流施設）の設置
- ◇ 老朽化で整理される施設機能の維持
- ◇ 子育て世代から高齢者まで、誰もが気軽に集えるスペースの確保
- ◇ 新たな担い手が入ってきやすい環境づくり
- ◇ 今後の祭のあり方、継承の検討
- ◇ 空き家、空き店舗情報の収集、発信、有効利用
- ◇ 各団体等が活動に使える供用スペース（会議室等）の確保
- ◇ 催事利用可能な駐車場の整備

2. 城端地域が目指す「まちづくりの方向性」

複合交流施設新設による地域住民が活発に活動できる拠点づくり

複合交流施設新設で目指す方向性

- ① 世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり
- ② 地域の情報を共有し語り合える仕組みづくり
- ③ やりたいことが実践できて活気あふれるにぎわいづくり

※各方向性は全てつながっていて相互に補完しあう関係である。

3. 複合交流施設新設の概要

<目的>

- ・ 公共施設再編計画の要請を踏まえ、庁舎統合によって空いた庁舎建物を含め、老朽化した地域内6施設のスクラップ&ビルドを1カ所で担うもの
- ・ 施設を複合化することで、図書館機能を中心に地域住民や観光客など誰もが気軽に集える利用しやすい建物を目指す
- ・ 子育て世代から高齢者までが集う、にぎわいの拠点であるための仕掛け・システム等を検討する

<近隣施設・再編統合施設との関連>

<城端庁舎>

取り壊し後、複合交流施設として新築（規模を縮小）

- ・行政センター窓口機能 → 複合交流施設へ
- ・土地改良区、曳山修理工房（曳山保存会） → 他施設へ（要調整検討）

<城端図書館>、<美山荘>、<保健センター>、<起業家支援センター>

複合交流施設へ一部機能を移転後、取り壊し

<勤労青少年ホーム>

他施設へ機能を移転後、取り壊し

- ・城端公民館、城端地区自治振興会事務局、会議室 → 旧共同福祉施設へ
- ※各種教室・サークル等の受け皿として、小学校特別教室棟の利活用を検討
（大型調理室、和室、小ホール等があり多用途に利用可能）

<旧共同福祉施設（商工会）>

商工会の複合交流施設への移転後、「勤労青少年ホーム」の城端公民館、城端地域づくり協議会（城端地区自治振興会）事務局機能を移転

<城端伝統芸能会館「じょうはな座」>

複合交流施設とドッキング（渡り廊下で連結）して一体化、回遊性を持たせる

※各施設取り壊し後の跡地活用については要検討

（例：図書館・勤労青少年ホームは水月公園・天満宮も含めて駐車場や公園等に整備など）

<施設機能＝どのような機能が入るのか？>

<まちのえき>

- ・地域住民や観光客が世代を超えて集い、交流する、にぎわい創出拠点
- ・総合案内、休憩所、連携交流拠点、カフェスペース、おみやげ販売、そば道場、人（市民、観光客、応援市民など）と公共交通（世界遺産バス、地铁バス、デマンドバス、なんバスなど）のハブ拠点、レンタサイクル発着所など

<図書館>

- ・司書常駐、中央図書館との連携を強化し、城端地域関連書籍等の所蔵は確保、蔵書は少なめでも学習スペースを充実、読み聞かせに対応

<社会福祉協議会>

- ・美山荘機能、相談、取り次ぎ対応（※美山荘の公衆浴場機能は移転しない）

<オープンスペース・会議室・貸室>

- ・高齢者や子育て世代が集い多用途に使える会議室や貸室スペース
（※パーティション等で用途に合わせて広さを変えられるオープンスペース）
- ・子どもの「遊び・学び・楽しみ」を高齢者や地域がサポートする多世代交流の拠点機能
- ・隣接する城端伝統芸能会館「じょうはな座」と連携した一体的な利活用

<共有事務スペース>

- ・行政センター
- ・商工会城端支部、社会福祉協議会城端支所、観光協会城端支部等
（各機関、団体等のバックヤード（資材倉庫スペース）を含む）

<屋外スペース>

- ・ペタンクコート（5m×15m）や軽トラ市にも使える多目的スペース

<施設の運営方法等>

《課題・問題点等》

- ・有利な財源（起債・補助金等）の確保
- ・運営母体（主体）の選定および調整
- ・運営組織（母体・中核）はだれが担うのか？受け手の検討
→ 商工会や観光協会の城端支部、新たな管理団体の検討（各組織の連携・共同が大切）
- ・施設の大きさは求めない ⇒ 最低限の大きさ
ハコではなくヒトで地域課題を解決したい
- ・災害発生時の避難場所（現庁舎規模＝大規模）としての対応は考えない
- ・地域内の他施設と積極的に連携協力・利用調整（考えられない）
（城端小学校、桜クリエ、南砺農業会館、JR城端駅、城端別院善徳寺、曳山会館・蔵回廊など）
- ・現分庁舎・図書館等に展示・保管されている文化財や美術品の管理

4. 複合交流施設新設で目指す方向性の実現に向けた具体的な取り組み

①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり

<目指すべき姿>

- ・地域住民や観光客が世代を超えて集い、交流し、にぎわいを創出する施設
- ・昔の遊び、むぎや、庵唄など、学校では教えてもらえないことを学び、体験できる
- ・観光客、高齢者、親世代、子どもたちが互いに学び、助け合い、交流を深める場所づくり

<方策・具体的な取り組み>

- 地域住民や観光客が世代を超えて集い、交流し、にぎわいを創出
 - ・情報の集約と発信：地域内の情報を収集・保管し、求めている人に適切に提供する
 - ・「まちのえき」として土日祝日も対応可能な、地域の総合案内機能を有する拠点施設
 - ・まちの魅力を伝える「まちのコンシェルジュ」を配置
(まちのコンシェルジュ：情報を集め、おもてなしの心をもってそれを発信する人)
 - ・ベタンク(1コート15m×5mを1~2面)や軽トラ市などに使える多目的スペース
- 図書館機能を中心としたオープンで多用途に使える拠点施設の整備
 - ・蔵書は少なめでも可、司書が常駐し、学習スペース等を充実させた図書館機能整備
 - ・高齢者が語り部となり、学校では教えてもらえないことや体験を教える・伝える
 - ・子育て世代(保育園児~中学生の親)の悩み相談等への対応
- フリーWi-Fiなどの整備(子どもや親世代が集う仕掛け)
 - ・移動図書館、e-スポーツ、囲碁サロン、体操・ヨガ教室などで多世代交流を促進
 - ・カフェ、軽食喫茶(弁当持参も可)→気軽に立ち寄れる居場所づくり

<地域(自分たち)で取り組むこと>

- ・まちのコンシェルジュを担う人材の選定・育成・養成
- ・子育て世代のニーズ把握、元気な高齢者のネットワークづくり
- ・むぎや踊りや庵唄など伝統的な技術を伝承するための仕組み・仕掛けの検討

<この取り組みに必要な支援(行政に望むこと)>

- ・Wi-Fi環境の整備、多用途に利用可能なオープンスペースの確保

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・効果的な情報発信と多世代交流の促進によるにぎわい創出の好循環
- ・伝統芸能の伝承と地元愛醸成の両立による地域の魅力増進

《課題・問題点等》

- ・情報の収集と発信に係る精度の向上と的確なニーズの把握
- ・まちのコンシェルジュの育成・養成システムの検討実践
- ・魅力的で誰もが集えて学べる拠点としての図書館機能とは？

②地域の情報を共有し語り合える仕組みづくり

<目指すべき姿>

- ・居心地の良い情報と人の発着所
- ・地域や地元の情報、井戸端会議的な寄り合いから地域課題を発見・解決

<方策・具体的な取り組み>

- 施設をうまく活用するための“しくみ”を考える
「知ってもらう・使ってもらう」「情報を集める・伝える」ための仕組みの検討・実践で「居心地の良い居場所づくり」
 - ・商店街の店舗、祭り・イベント、子育て・悩み相談、サークル・グループ活動、求人など地域内の情報を収集し、情報を必要としている方(地域住民や観光客)に適切に提供する
 - ・「地域の人に知ってもらう・使ってもらう」ための仕組み
→ 広告宣伝、オープニング・定期イベント、案内窓口、利用者斡旋
 - ・「情報を集める・伝える」ための仕組み

- 情報収集発信サポーターシステム、ネット窓口、掲示板（電子掲示板・SNS等）「なんとポイント」と連携し情報提供者にポイントが貯まるなどの仕掛け
- ・「居心地の良い居場所づくり」
 - 清潔/ほどよい雑踏・変化・普遍/季節感/関心の高いサービス・情報・施設（図書）/お得で便利（Wi-Fi、ATM、コピー、充電、PC、自販機など）
- ・オンデマンドバス、図書館システム、住民票等の発行などの利便性の高い機能と安心して遊べる場所としての機能の提供・継続管理
- ・担い手は「城端が好き」で「人と話すのが好き」な人（交替で複数人常駐、仕事しながら）

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・情報収集&提供、施設の利活用、イベント運営など
- ・「居心地の良い居場所」、「来たくなる場所」の雰囲気づくり

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・財政的支援（人材育成・雇用確保・ソフト面運用）
- ・バックアップ（関係各機関との連絡調整など）
- ・ネットワーク連携、構築（オンデマンドバス、Wi-Fi環境など）

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・新たな地域活動拠点で「まちの魅力」の共有・発信や、空き家・空き店舗の情報共有による有効利用ができる仕組みの構築で活力増進

《課題・問題点等》

- ・情報収集テンプレートなど誰にも分かりやすく使いやすいシステムの構築
- ・情報発信ツールの選別、継続的な運用、担い手の確保や育成 など

③ やりたいことが実践できて活気あふれるにぎわいづくり

<目指すべき姿>

- ・子どもから高齢者までが集う魅力ある場所 → 人との出逢い
住民には当たり前の日常が観光客には非日常。そう思わせるのは「人・出逢い・交流」
- ・まちの人たちが元気になる施設・場所
- ・「ダンボでヨスマな(博識で面倒見の良い)人」「まちのために何かしたいと思っている人」がプレーヤーとして能力を発揮できる場所

<方策・具体的な取り組み>

○地域のランドマーク 城端型「まちのえき」

- ・多様な機能が集約された地域拠点
 - 〈総合案内〉 観光、行政、各種情報の集積・管理・提供・発信
 - 〈交流拠点〉 まちの人、世代間、市内他地域、観光客、外国人、応援市民の交流促進
 - 〈休憩所〉 カフェ、軽トラ市 など
 - 〈連携拠点〉 地域間ネットワーク、商店街の連携、公共交通待合所、レンタサイクルヒッチハイクステーション
- ・持続可能な「かせげる拠点」として収益を上げる
カフェ・そば道場・土産物販売所・貸部屋（会合、教室、グループ活動、マルシェ等）

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・まちのコンシェルジュ、観光ガイド、軽トラ市実施に係る人材の選定・確保・育成
- ・文化の達人、ダンボでヨスマな人の選定

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・地域間ネットワークの連携調整（商工会・観光協会などの関係団体など）

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・世代間交流の促進でアイデアとヒトが集まるにぎわい拠点づくり

《課題・問題点等》

- ・カフェ、そば道場、軽トラ市等の担い手確保、持続的な収益の確保
- ・まちのランドマークとしての魅力づけ など

平成31年2月に開催された地域審議会でのまちづくり検討会議に関する意見
(地域審議会委員からのご意見…●、市当局からの回答…○)

城端地域審議会

- 今後の進め方について。来年7月には庁舎は空になる。その時点で方向性は決まっていなければ、解体に1年、建設に1年、というように遅れ遅れになるのでは困る。2020年7月に直ちに工事に取り掛かれるような、分かりやすいスケジュールの提示を求める。
 - 来年度の総合計画の中にしっかりと位置付けた上で進める。内容が決まっているのに停滞する、ということのないようにしなければならない。来年の7月統合なので、早ければ2020年初予算、或いはH31年度の3月補正に盛り込んでいけるよう進めていく。
- 図書館、老人福祉施設のあり方について。図書館機能としての、中央図書館と分館の関係・規模・仕組みを示してほしい。また、当地域の美山荘の施設自体はもう限界であり、今後の複合施設を考える上で、他の地域の老人福祉施設も含めた統一的な考え方を示してほしい。
 - 考えを直ちに示すことはできないが、そのことで遅れが出ないように検討を進めたい。施設の整備は公共施設再編計画による面積の削減と並行して検討していかなければならないが、文化・教育施設は地域間格差を無くすために、1箇所にとどめるとすることは極力したくないと考えている。
- まちづくり検討会議で、既に、新しい施設を造る方向でまとまった。早く具体的な検討に入らないと遅れないか。
 - 地域の合意形成が一つのステップ。ステップを踏みながら進めていく。そういう意味ではH31年度は大事な年。少なくとも3年間の計画を具体的に盛り込みたい。
- 複合施設の新設について。現庁舎の改築による利活用の議論はどの程度されたのか。
- 新しい複合施設のイメージを考えると現庁舎の利用はふさわしくない。空調や配管等の老朽化など、色々と検討した結果として、現庁舎を取壊して新設の方向でまとめた。
- 新しいものを建てるのにライフサイクルコスト等の数字が明確に示されていない中で判断できない。
- 費用対効果等はこれから市当局で計算されると思っているが、我々が考えている複合施設は販賣の拠点という目的なので、単に事務所としての現庁舎のリニューアルでは無理だと思っている。
 - 複合施設に民間団体を入れたときにどうなるかなど、いろいろな課題について皆さんとキャッチボールをしながら議論を深めていく中で、具体的な建設コストなどを示せるようになれば、既存か新設かの判断もしていくことになる。
- 建物の耐久性等、数字を提供されるともう少し観点の違った話もできたのでは。この場合は予算規模などの情報も示して審議する場としてほしかった。また、他地域と提言の結果を共有し、自分の地域のことだけでなく、市全体を見ながら考える機会が必要だったのでは。
 - 他の地域でも同じような意見が出ている。使わなくなる庁舎やその跡地をどう活用するかということを含んでいため地域ごとの議論となったが、今後は総合計画策定の中で市全体の議論として検討していくべき。
- 城端地域は、美山荘・保健センター・図書館等、地域内の公共施設全体を考えての提案であり、

庁舎のことだけを考えているものではない。5～6の公共施設を取壊し、そこは更地にして、新たな複合施設はできるだけコンパクトにしようという内容。公共施設再編に対して城端地域は多大な貢献をしている。

○公共施設再編で無くなる施設を複合施設化して、かつ、利益を生む、という発想は素晴らしいと評価する。公共施設再編へのご理解に重ねて御礼申し上げます。

●庁舎統合が福光で決まったならば、今後はスピード感をもって進めてほしいが、地域間で禍根の残らないよう丁寧な説明をお願いします。また、今回のこの議論が既成事実とならないことを願う。

○今後も皆さんとやりとりしながらスピード感を持って取り組みたい。